

まるいん通信



発行 公益財団法人屋久島環境文化財団 電話 0997-42-2911



新年あけましておめでとうございます



かねてから当財団へ御支援、御協力を賜り厚くお礼申し上げます。
皆様にとって今年一年がよい年となりますよう職員一同心より御祈念申し上げます。
本年もよろしくお願い申し上げます。



やくしまアプリ割を導入

令和6年2月1日より、やくしまアプリをダウンロードされている方は、受付の際に、アプリを表示いただけると観覧料の割引がございます。ぜひ、アプリをダウンロードして、村センターにお越しください。

区分	通常料金	割引料金
大人	530円	430円
大学生・高校生	370円	300円

※団体割引と併用はできません。

令和5年度 「屋久島ガイドセミナー」

屋久島の自然と文化のすばらしさ、自然と人との関わり(環境文化)などを伝え、持続可能な地域づくりを目指す屋久島でのエコツーリズムの確立に資するため、基本的な知識や技術に関する講習会を令和6年2月中旬頃に開催を予定しています。詳細につきましては、屋久島環境文化財団ホームページ及びSNSで広報いたします。

右のQRコードから、申込いただけます。申込をしていただいた方につきましては、詳細が決まりましたら、メール等でお知らせいたします。



ガイドセミナー申込form

屋久島登録ガイドを目指す方はガイドセミナーの受講終了証が必要となるよ。
忘れずに受講してね！



サシバという鷹について ～豊かな里山のシンボル～

「一富士、二鷹、三茄子」このことわざは初夢の中で見ると縁起がいいものとしてよく知られています。皆さまの初夢はいかがでしたか？中でも「二鷹」は「高い」の語呂合わせから「出世・運気上昇」の縁起ものとされています。そんな上昇していく鷹の縁起にあやかりたいと思い、「サシバ」という鷹についてご紹介します。

サシバはカラスほどの大きさの鷹の仲間であり、いわゆる「渡り鳥」です。冬の時期はフィリピンなどの東南アジアで過ごし、春になると繁殖のために日本にやって来ます。最初に雄が飛来して縄張りをつくり、続いて雌がやって来ます。夏の間にヒナが生まれて子育てを行い、秋になると越冬地の東南アジアに帰っていきます。サシバの大きな特徴は、大海原を旅する生活サイクルにあります。

サシバにとって、屋久島は渡りの中継地点の1つです。そのため、春・秋の屋久島では、たくさんのサシバを観察することができます。また、鷹たちが海や大きな峠を越える前に大集団となり、上昇気流の吹く斜面で一斉に旋回上昇をするさまは「鷹柱(たかばしら)」と呼ばれ、屋久島では秋の風物詩として親しまれています。しかし、サシバは絶滅が懸念されている鳥類でもあります。

その減少の一因として背景にあるのが、日本の里山環境の変化です。サシバの典型的な繁殖環境は、人里に接し人間生活の影響を受けながらも豊かな生態系が維持される「里山」です。日本の里山は長い間耕作が行われ、人による手入れがあったことで多種多様な生き物が育まれてきました。現在では、農業従事者の高齢化や後継者不足などにより、里山からの人の減少や、耕作放棄地の増加などの理由で、サシバにとって必要不可欠な両生爬虫類や昆虫類が生息するような豊かな生態系を持つ里山が減少しています。

サシバが繁殖できる場所は豊かな生態系が育まれているとも言えることから、サシバは豊かな里山のシンボルと呼ばれています。今年の春や秋はサシバを観察して、日本の里山の風景に想いを馳せてはいかがでしょうか。



屋久島を想う

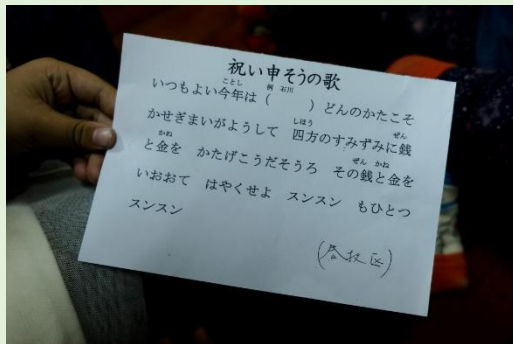
事業課 中島 遼

私は屋久島に移住して今年で8年目になる。

屋久島に住んで初めの頃は自然の力強さに圧倒される日々だったが、島の暮らしを知るうちに伝統行事や文化もこの島の大きな魅力であると感じるようになった。

私が好きな伝統行事の1つに、1月7日の夜に行われる「祝い申そう」がある。集落によって「門まわり」「くせもん」などと呼び方が異なり、歌の歌詞や内容も少しずつ違う。春牧集落では子どもたちが福の神となって各家を回り、「いつもよりことしは」と、その家の繁栄を願う祝いの歌を届ける。歌い終わるとお年玉やお菓子を受け取り、皆で分け合う。

北海道で育ち九州に馴染みのなかった私にとって、島の行事はどれも個性的で新鮮だが、不思議とどこか懐かしく、温かい気持ちになる。世界自然遺産の島として今も多く観光客が訪れる屋久島。豊かな自然だけでなく、こういった暮らしの中に息づいている文化がこれからも続いてほしい。



【1月・2月の休館日】

村センター 1月:1日(月)・9日(火)・メンテナンス休館14日(日)～22日(月)・29日(月)

研修センター 1月:1日(月)～3日(水)・9日(火)・15日(月)・22日(月)・29日(月)

村センター・研修センター共通 2月:5日(月)・13日(火)・19日(月)・26日(月)